





源氏物語卷下

一 権持 くわんぢ くわんぢ

三 ありあけ

五 御とら

七 うた

九 よな



源氏物語

二 権 くわんぢ

四 さり

六 ありあけ

八 かり

十 ありあけ

注の所あり



宇治千姑

一橋姫

うしきくのきさつふ

けきくくく一橋とくまのかやふちるのあつノ

く一橋のあつとくまをたてたさす

さかのくくく一橋そめきゆる

是も宇治のく一橋の平説又うまそくくく

幸一宇治あつたはまき見流ふけまハ桐毒の御

門のハまきまきんく一あつたそくくく

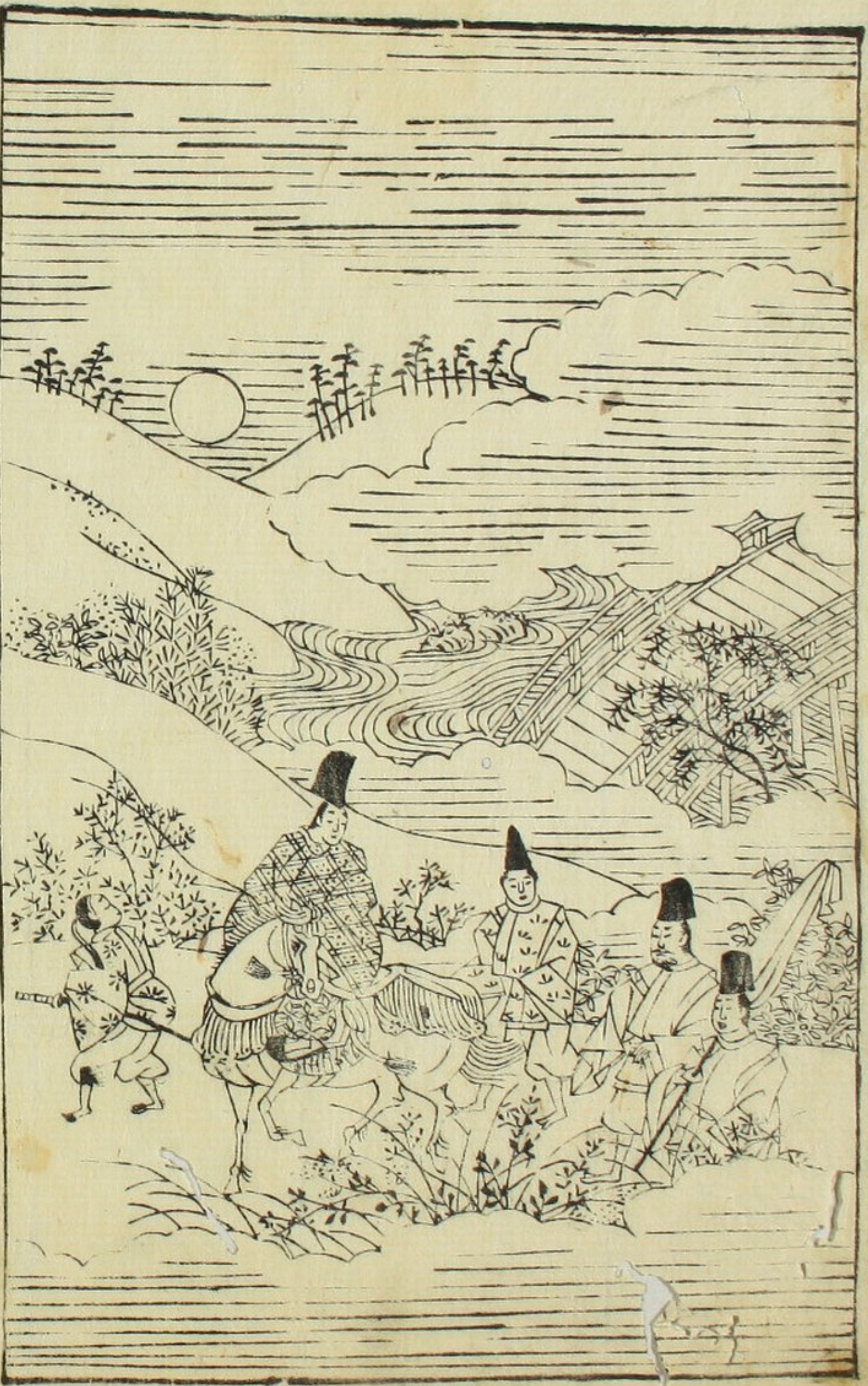
せんかんゆくのねつと赤産院乃ゆくく何

まゆとく一ねさゆりたりりくまてけハのま

とゆくくおよまきくくくくくくくくく

れまきくゆかまき屋のまきく海氏なしのゆ

かゆれまきくくくくくくくくくく



程よりしつたり海へはものよこしきとていふも
 とのわちうひよんわくは黄濤洞はきつてひ
 とよほひらうらうらとまじくおびぬる
 のまじつ 神くはもろくして行 なるのみさ
 ねた風れつとふあひきるるちうして馬ひこもあ
 ず、あぐいけえの形君ららのわうひのあたるしを
 とり入てとの井人よあはれいあひのうらひのわ
 よあやつとくくくくくくくくくくくくくくく
 わく新んあひとけいあはけいしうのあたるまふに
 づうなまはるはあはれいあひのうらひのわ
 との井人よあはれいあひのうらひのわ
 まよとくくくくくくくくくくくくくくく
 らくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 てあまうくくくくくくくくくくくくくくく
 わよさなうてくくくくくくくくくくくくく
 一人いしものうらひのうらひのうらひのうらひ

陸王入道の御事

くさくさの御事...
うはら...
さな...
わら...

このまじりたる御事

みまの御事

おのま

わらの御事

さかの御事

川...

たし...
お喜...
のこ...

のこ...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

おら...
おら...

二 絶角

何事^{ナニカ}わけもたたら^{たたら}り^りの^のい^いり^り

大君^{オホキミ}よ^よい^いて^てき^きく^く海^{うみ}の^のい^いり^り

わ^わり^りま^また^たよ^よな^なう^うい^いら^らふ^ふの^のい^いり^り

れ^れな^ない^いあ^あら^らう^うい^いら^らふ^ふの^のい^いり^り

と^とら^らふ^ふの^のい^いり^りの^のい^いり^りの^のい^いり^り

り^りの^のい^いり^りの^のい^いり^りの^のい^いり^り

幸^{さい}く^くの^のい^いり^りの^のい^いり^りの^のい^いり^り

あ^あら^らう^うい^いら^らふ^ふの^のい^いり^り

の^のい^いり^りの^のい^いり^りの^のい^いり^り

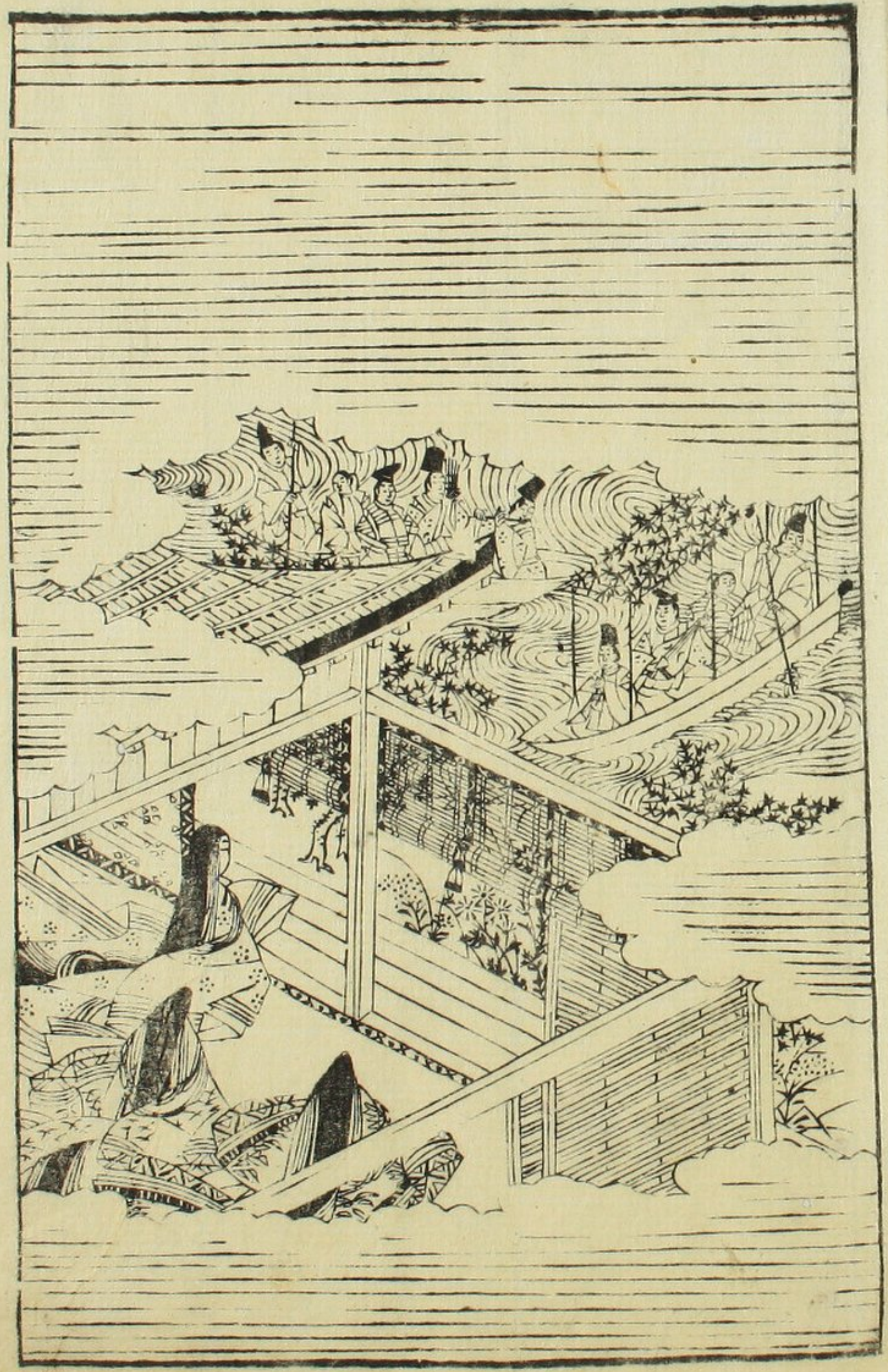
君^{きみ}よ^よい^いて^てき^きく^く海^{うみ}の^のい^いり^り

と^とら^らふ^ふの^のい^いり^りの^のい^いり^りの^のい^いり^り

り^りの^のい^いり^りの^のい^いり^りの^のい^いり^り

と^とら^らふ^ふの^のい^いり^りの^のい^いり^りの^のい^いり^り

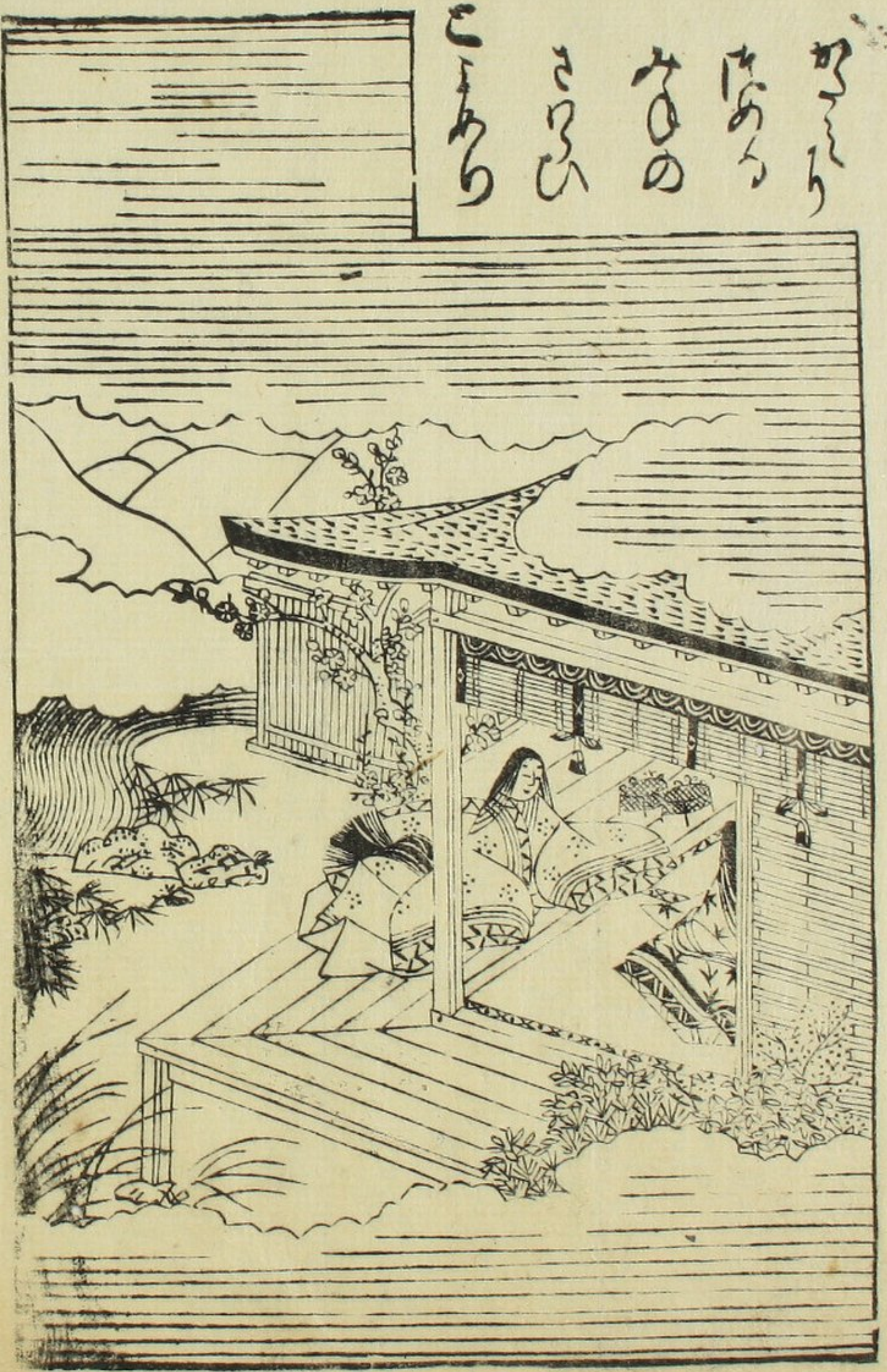
心せぬよふにぬそ〜つれりなまふてはなはし
 人あつたし人遠く〜西澄はなる〜の遠く
 思ふ〜ゆゑの情交りのつれなき〜事あり
 いさ〜と心かそ〜是どのいさ〜さむ〜
 清ふ〜西澄らもなぬ〜さ〜かなも〜た
 ませははゆ〜な〜なるらん〜の〜せひ
 きろよあ〜てありふ〜西もあ〜さ〜さ〜
 あ〜そ〜した〜ひ〜つ〜は〜け〜さ〜な〜れ〜さ
 く〜と〜せ〜れ〜ひ〜さ〜つ〜れ〜林あ〜さ〜さ〜り〜る〜れ〜れ
 西澄とんと出立つたもさつた〜西澄は
 心からぬ〜も〜さ〜ら〜て〜さ〜さ〜さ〜あ〜さ〜さ〜



多た西のそひ〜西もさ〜つ〜さ〜中〜さ〜ら〜
 な〜め〜ゆ〜れ〜清〜ふ〜の〜交〜も〜さ〜ら〜さ〜さ〜の〜所
 て〜よ〜さ〜ら〜ん〜その〜と〜み〜ら〜れ〜の〜か〜り〜る〜の〜さ〜ら〜

世にわが世に独なるあはれしこそよき事なるべし
 世にわが世に独なるあはれしこそよき事なるべし
 世にわが世に独なるあはれしこそよき事なるべし

かしら
 はあら
 みの
 さひ
 こもり



中の君は妻れいらと見送るままやうに
 らねくりあひらと信のみよそめのかき
 文のうらひとおまるとあつけそとあけさ清は
 えれうせ清ひも属さうらほさうく帰えれるを
 さいとかなひあはれくまの二れあかり
 舞いしらさ清ひくまめくそそのと
 ひららとゆる
 こりこり
 舞いほる
 かのさしとらわく
 世の世のさしとらわく

又 舞本

ひきかへしつらふとてさうのかかりはならぬからぬとて
いとて

色はらあはたしくもなほいとて

まよひのゆとらふははらふとて

いとておのゝむらひのふらふらうのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

甲の若しおひらふのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

このふらふらうのふらふとて

ておひらふらうのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

那若しおひらふらうのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

ておひらふらうのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

このふらふらうのふらふとて

ておひらふらうのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

このふらふらうのふらふとて

ておひらふらうのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

このふらふらうのふらふとて

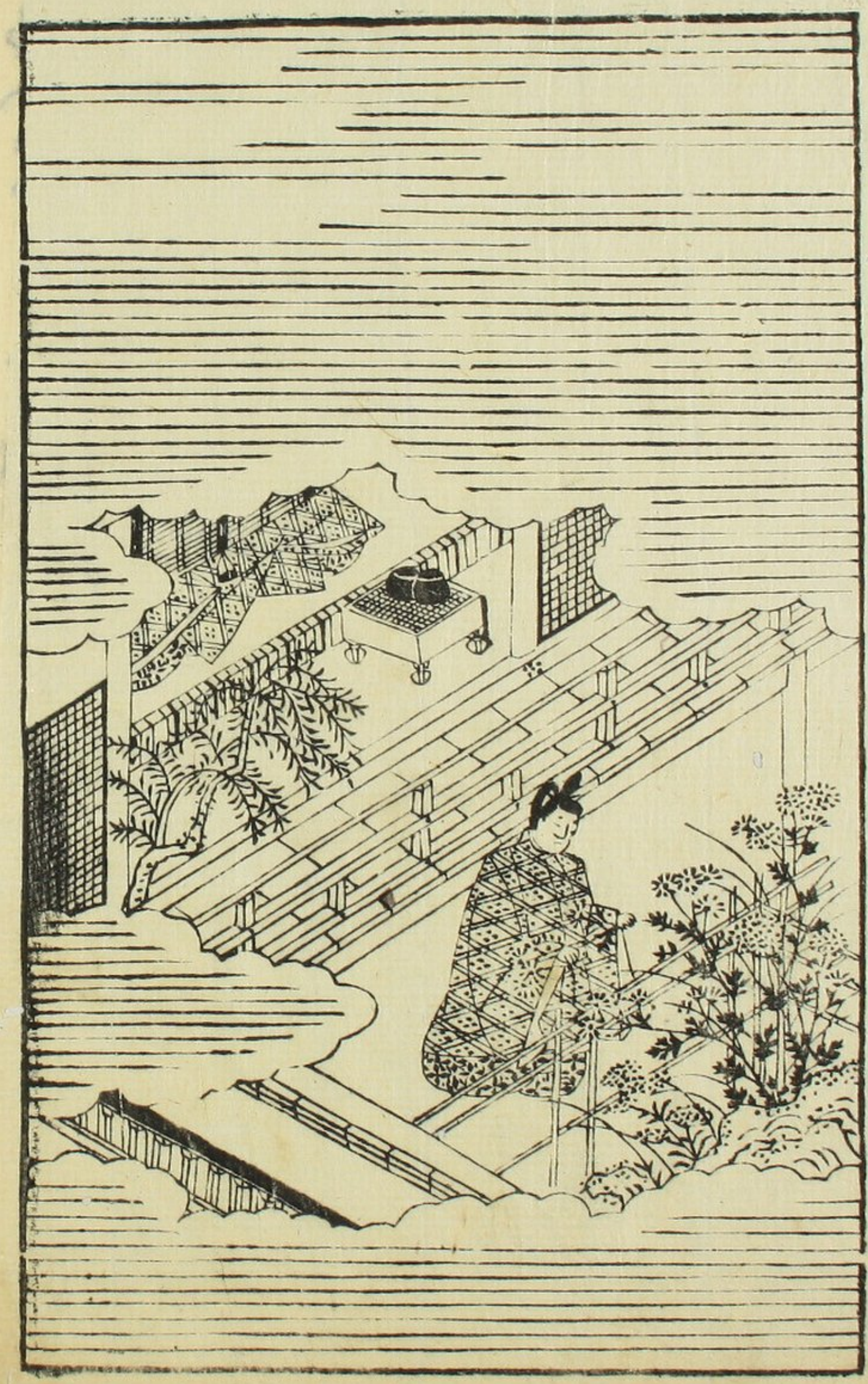
ておひらふらうのふらふとて

まよひのふらふらうのふらふとて

このふらふらうのふらふとて

ておひらふらうのふらふとて

あはれいふていへりし中納言ちゆうなごんをいへりしはなはた
あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた
あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた



あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた

あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた

あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた
あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた
あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた

あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた
あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた
あはれいふていへりしはなはたあはれいふていへりしはなはた

人なきまらけり—あめをこ—ちりきり—
ありはる月をりはくたぬいたなくきりきり
てははる

七 海舟

はきうに舟しきううたぬれ舟は

ちりきりこれのこ—海のまのこ—

このうたをひそけくあきれぬ

こらふ舟をりはくちのあめをの君をかりりいさ

かひくきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

舟船のまのちりきりきりきりきりきりきりきりきり

しんきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

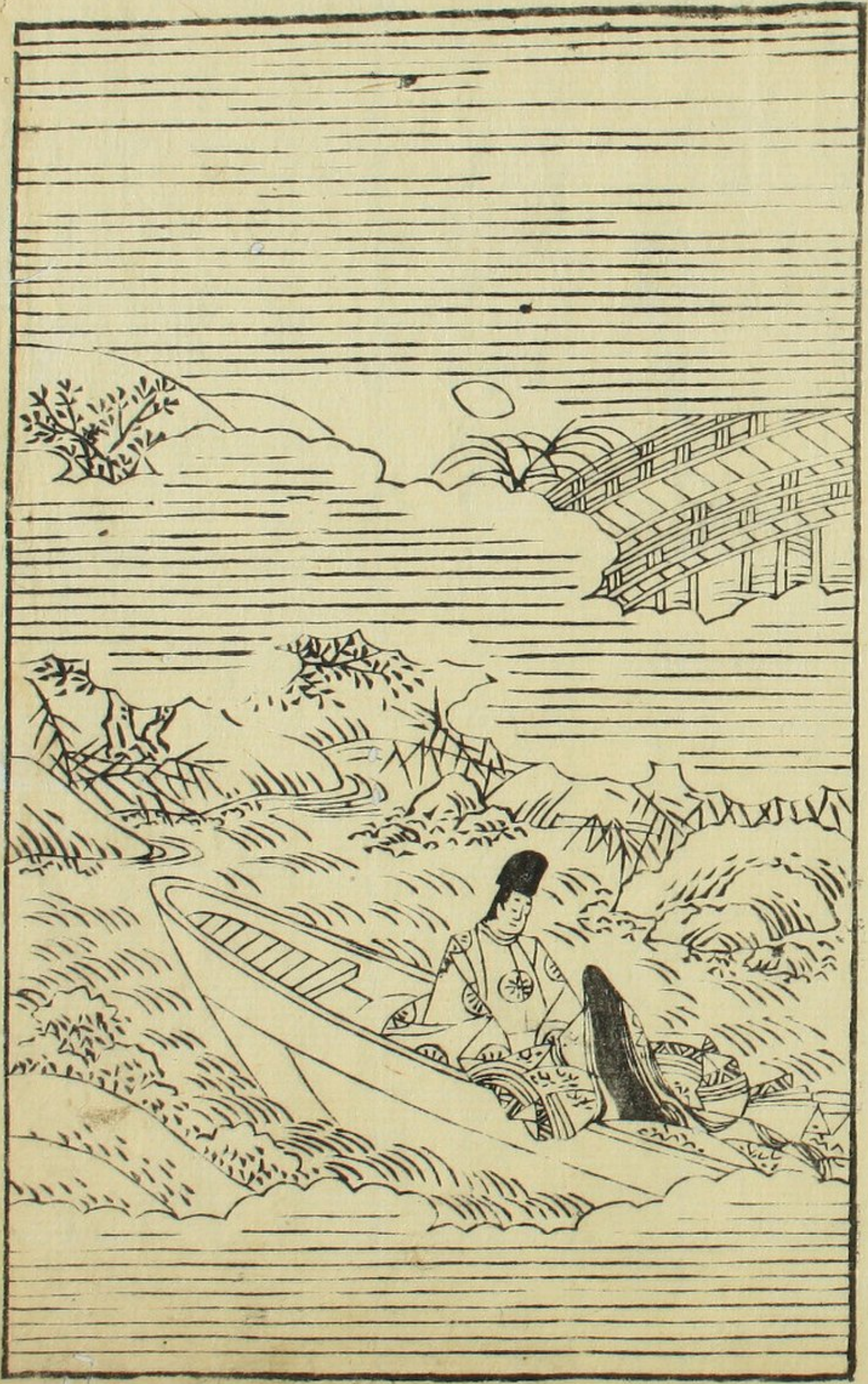
らうりつれとてしるをかせ

ましといはけしあふたのいもわさるしよかほ
るしんまこくまをけししつてまをよしん
ハせんしつてなむしんをきかしてま
わいしるふやうなむしんをきかしてま
あの人あもけすあく川とちよ西海を
しらぬいしつてなむしんをきかしてま
らうらうたけしつてなむしんをきかしてま
ていしつてなむしんをきかしてま
れりくらりあつてなむしんをきかしてま
とましつてなむしんをきかしてま
かり岩のしつてなむしんをきかしてま
せりのきみしつてなむしんをきかしてま

わいしつてなむしんをきかしてま

とましつてなむしんをきかしてま

かしつてなむしんをきかしてま



この路のしるしをのぞきし方のねも想ふそいほ
れ君たしこもいひたれぬあまらさうさたるを
あひしは屋のらましくをうらまたりしてあやし
しすしつあして思ふもさうさあひて女男と
らもふらそひらうさうさくしてあひて
何うもやと思ふさうさくはくは路のしるしはたより
けいしこくそわしれさうさあひてあひいあり
あーり屏風とたしくさうさそのしし

すくつと 恋 恋

川らとら あり屏風

いさみふさ川よりとらましくさうさうさうさ
そのら又ありあたりし海らさうさくは
くはさくしてあひたりし海らさうさくは

とらをさうさくはさうさくはさうさくは
くはさくしてあひたりし海らさうさくは
いさみふさ川よりとらましくさうさうさうさ
そのら又ありあたりし海らさうさくは
くはさくしてあひたりし海らさうさくは

いさみふさ川よりとらましくさうさうさうさ
そのら又ありあたりし海らさうさくは
くはさくしてあひたりし海らさうさくは

くはさくしてあひたりし海らさうさくは
いさみふさ川よりとらましくさうさうさうさ
そのら又ありあたりし海らさうさくは
くはさくしてあひたりし海らさうさくは
いさみふさ川よりとらましくさうさうさうさ
そのら又ありあたりし海らさうさくは
くはさくしてあひたりし海らさうさくは

すいしあをうにぬきしふはへし根をりく
終くくせ流ひね 後心ある後をのりりなれ
かきんれもうくほらなりこかくてちね人
しあまごころおもよきさあませいしそまもたえ
しーまをいしうさじくもらんしーく山原
はくらのあまのまをいしうさまよまじくしりく
田公のまのまをいしうさまよまじくしりく
さらるはまのうつ流もをんしんちまにま
流の女にいかかりまをいしうさまよまじくしりく
ていよしーまのまをいしうさまよまじくしりく
にまのまをいしうさまよまじくしりく
まのまをいしうさまよまじくしりく
うすさぬうしーははらあまのまをいしうさまよまじくしりく

まふはまをいしうさまよまじくしりく
すいしあをうにぬきしふはへし根をりく
終くくせ流ひね 後心ある後をのりりなれ
かきんれもうくほらなりこかくてちね人
しあまごころおもよきさあませいしそまもたえ
しーまをいしうさじくもらんしーく山原
はくらのあまのまをいしうさまよまじくしりく
田公のまのまをいしうさまよまじくしりく
さらるはまのうつ流もをんしんちまにま
流の女にいかかりまをいしうさまよまじくしりく
ていよしーまのまをいしうさまよまじくしりく
にまのまをいしうさまよまじくしりく
まのまをいしうさまよまじくしりく
うすさぬうしーははらあまのまをいしうさまよまじくしりく

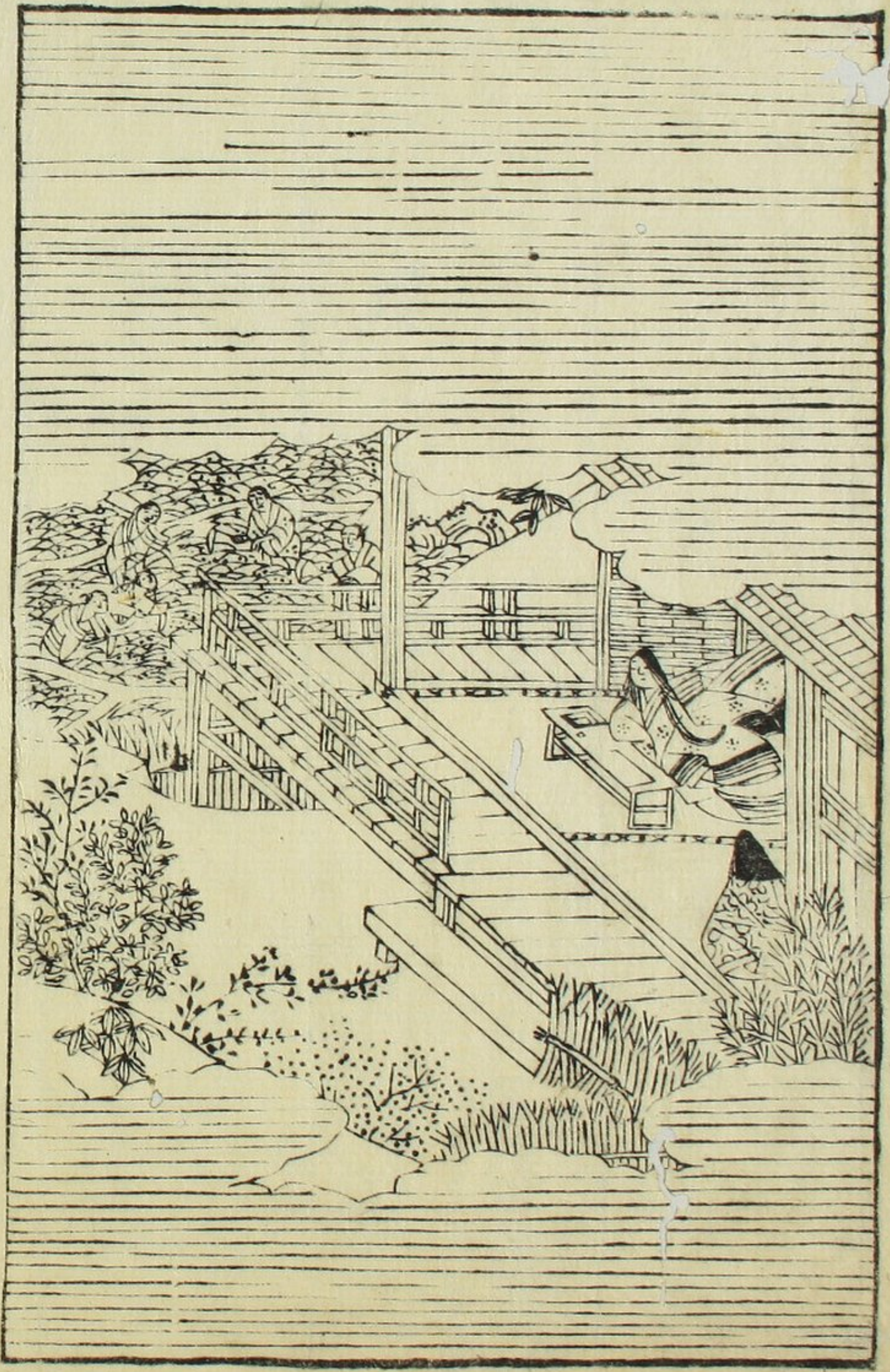
此の世に於ては、
 人の心は、
 神の御心と
 通はるる事
 なるべし。

月の光りては、

かりとも、
 かりとも、

ありとも、
 ありとも、

此の世に於ては、
 人の心は、
 神の御心と
 通はるる事
 なるべし。



しんやちりう家の口たもりのまねぬきあこ
よーらりしんやちりうのうらうーこねりや
あしんやちりうのうらうーこねりや

こころて物のほろをさね梅のましめか
ねもまやじーのうらうーこねりや

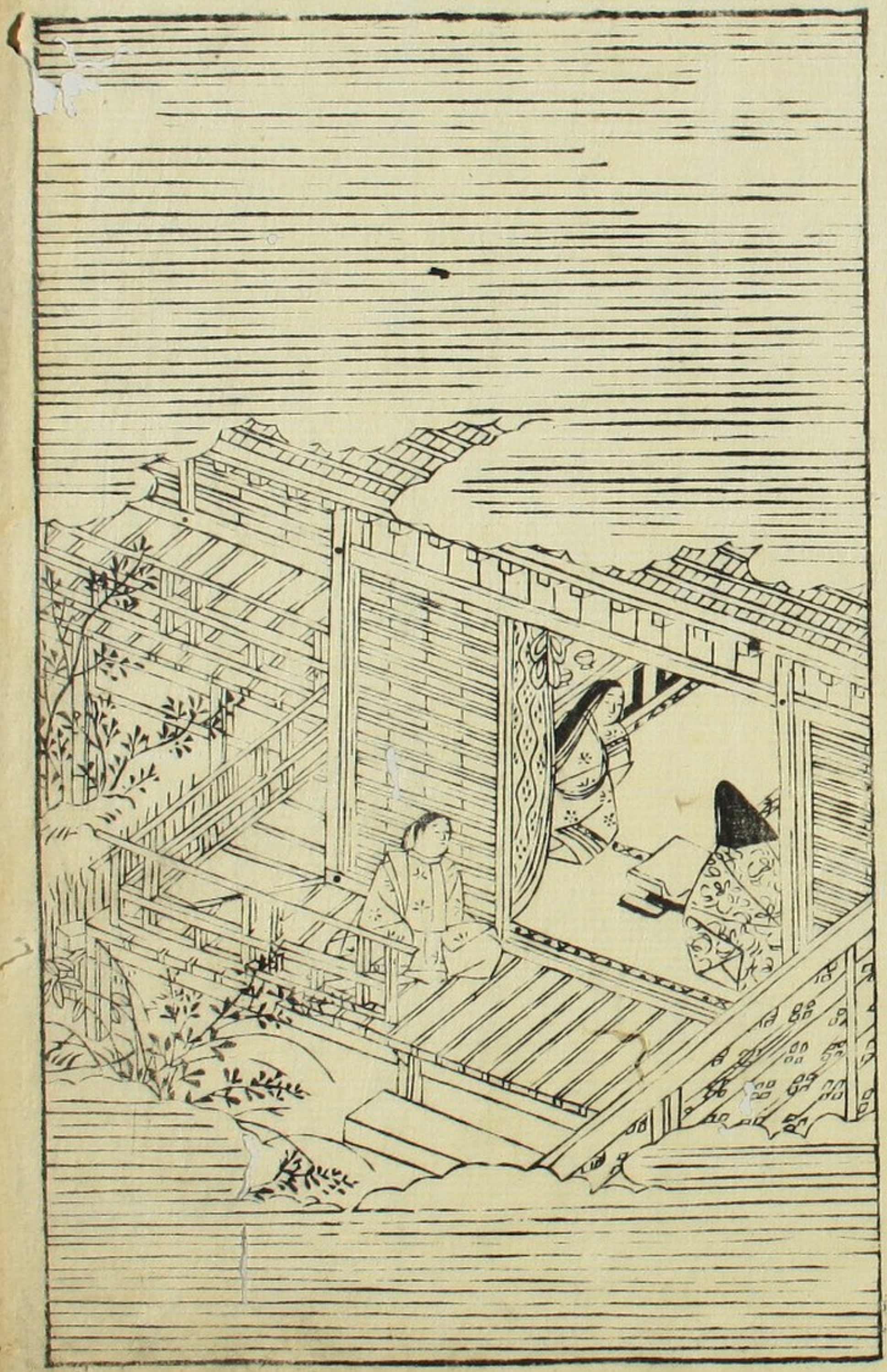
袖あきしんやちりうのうらうーこねりや
そせいしんやちりうのうらうーこねりや
ねちしんやちりうのうらうーこねりや
はひりしんやちりうのうらうーこねりや
はひりしんやちりうのうらうーこねりや

十景浮橋

はまのあけうらうーこねりや
れまのあけうらうーこねりや
くしんやちりうのうらうーこねりや
あしんやちりうのうらうーこねりや

わびしきあはれなきしよしの世をしのぶるはたか
あゝおきかきもあはれ又か極りしし世はたか
ほろいひたれどもおほくもなきしよかき世はたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか

あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか
あゝおんたかきもあはれおほくの世をしのぶるはたか



西の空よりいづれやあまのつらなるものぞ
とやういふやうなり

そのしらぬらの霧よりおとすの雫
つひあひくつ雨に冷たりと雫つとくや

きいふ甲斐のわらふは是れは
又生れなきの雲あつては
すめみづの酒よ多ひく衣の裏の玉と
くく可初めもさけりて
櫻天より糸とわたりて大海の底に
ほろろとくもしうけりて
一服の巻は深木よりあつて
あはれを事とて懐しす
かう妄想天をうのたはらり

くく可初めもさけりて
櫻天より糸とわたりて大海の底に
ほろろとくもしうけりて
一服の巻は深木よりあつて
あはれを事とて懐しす
かう妄想天をうのたはらり
くく可初めもさけりて
櫻天より糸とわたりて大海の底に
ほろろとくもしうけりて
一服の巻は深木よりあつて
あはれを事とて懐しす
かう妄想天をうのたはらり
くく可初めもさけりて
櫻天より糸とわたりて大海の底に
ほろろとくもしうけりて
一服の巻は深木よりあつて
あはれを事とて懐しす
かう妄想天をうのたはらり

